

ブドウ球菌性膿皮症—飼主さま向け情報

1. 一般情報

- a. *Staphylococcus pseudintermedius* という名前のブドウ球菌はあらゆる犬の被毛に普通にみられる細菌です。適切な条件が整えば、この細菌は表皮、毛包、時には深部組織で増殖することができます。
- b. 表皮の環境が変化すると、この細菌は増殖し皮膚病を引き起こすことがあります。きっかけとしては、アレルギー、熱、湿度、摩擦、ホルモン変化、遺伝が挙げられます。
- c. ブドウ球菌性膿皮症の症状は、脱毛、膿疱または丘疹の存在、かゆみや舐めこわし、皮膚が赤くなる、ふけ、脂っぽいまたはワックス状にべたっとした外観、強い悪臭です。
- d. この細菌は、暖かい湿潤な領域で増殖する可能性が高いため、皮膚のヒダ、腋窩、腹部の被毛が少ない部位の皮膚が主に冒されます。

2. 診断

- a. ブドウ球菌性膿皮症は、皮膚細胞診による細菌の同定により診断されます。一部の症例では、診断の助けとするため皮膚生検が必要となることもあります。また、細菌の存在を確認し、適切な薬物療法を処方するために、細菌培養を実施する場合があります。
- b. 再発を予防するために、細菌感染の本来の原因の特定を試みます。多くの患者さまでは、感染が診断されるまでにかゆみの原因は消失しています。

3. 治療

- a. 軽度または局所症例は、シャンプー、リンス、スプレー、外用薬で治療できます。愛犬を_____シャンプーで治療します。10分間以上おいてからリンスしましょう。_____最後のコンディショナーや保湿剤として_____を用います。水洗いして流してはいけません。指示された部分の治療には_____を用います。
- b. 全身性、または重症度の高い症例は、外用療法に加えて経口または抗菌薬の全身投与で治療するのがもっとも適しています。最短治療期間は2週間ですが、一部の症例では抗菌薬療法を数ヵ月間行うこともあります。_____を行うため愛犬を_____で治療します。